

六ヶ所村立郷土館事業

第5回

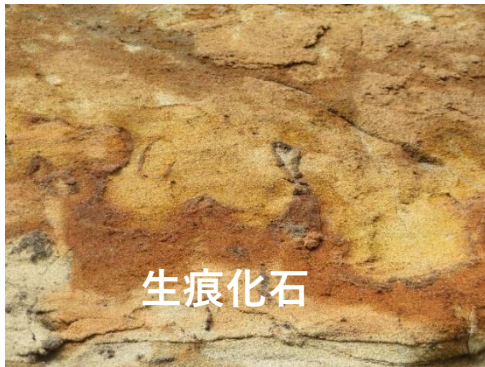
六ヶ所村の地層・化石観察ツアー

みんなで楽しく
化石探し！



○行程：郷土館集合→野附の露頭観察→郷土館で微化石の観察

1 老部川南西部尾駁字野附の露頭：海成段丘構成層



海成段丘とは、かつて海水面に近かった岸が波の浸食と土地の隆起や海退によってできた段丘の地層である。

黒土の下に砂の層があり、その下にまた黒土の層（クロスナ層）があることから、飛砂による新砂丘砂の層（縄文時代から白頭山一苦小牧火山灰の約1,000年前）と考えられる。

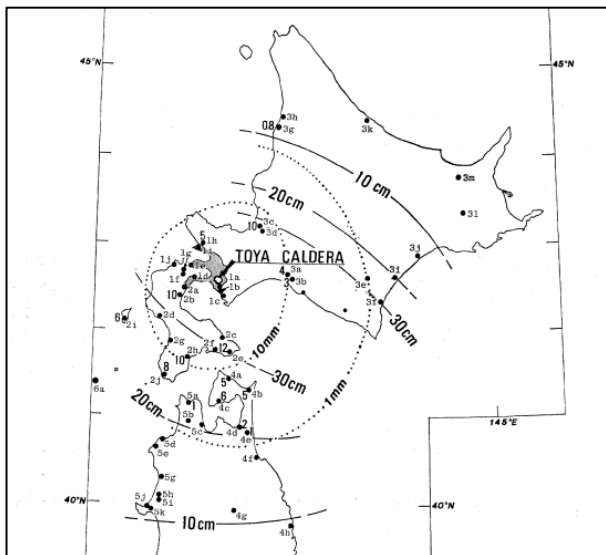
赤い色の層は粘土質ローム層で、白っぽい色の洞爺火山灰（約11万年前）をはさみ、その下に約12万年前に陸地化したことがわかる不整合がみられる。その下の層は、デルタ地帯の荒砂で、斜交ラミナが見られ、生痕化石も観察できる。地すべりの跡（矢印）も観察できる。

洞爺火山灰は、火山ガラスと斜方輝石を持ち、他の火山灰と明確に区別される北日本をおおう細粒火山灰層である。

洞爺カルデラから噴出した洞爺火砕流堆積物で、この噴火は、水底で起こったと考えられている。

野辺地千草橋で約14cm、東北町甲地で約10cmの層を観察できる。

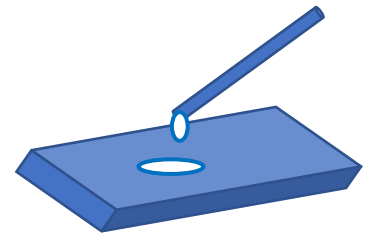
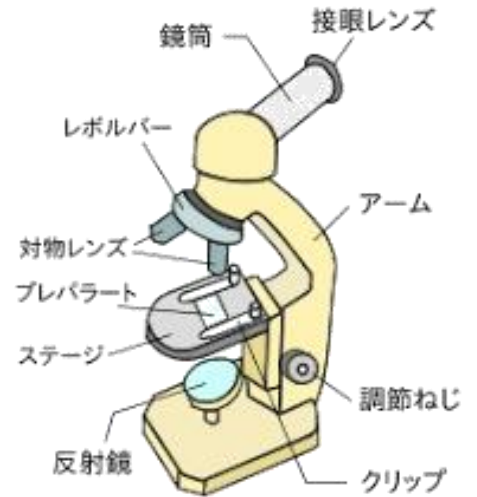
では、六ヶ所村では、何cm積もっているか、観察してみよう。



「北日本を広くおおう洞爺火山灰」

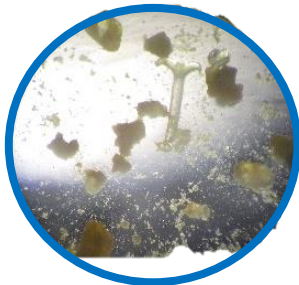
2 露頭で採取した土から化石を見つける

- 1 採取した土を水にとかす。
- 2 ストローで一滴、スライドガラスの上にのせる！
- 3 顕微鏡で観察
- 4 微化石さがし（砂や泥の層から）
- 5 顕微鏡の使い方
 - ① ステージにプレパラートをのせる。
 - ② 倍率の低い対物レンズから観察
 - ③ 見えたら、倍率の高い対物レンズにかえる

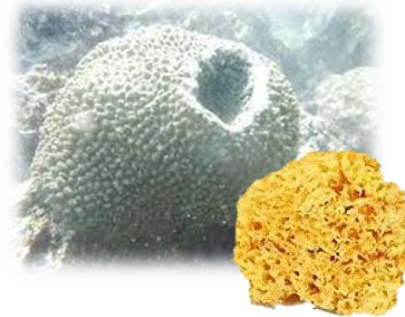


3 その他の微化石（顕微鏡で観察する化石）

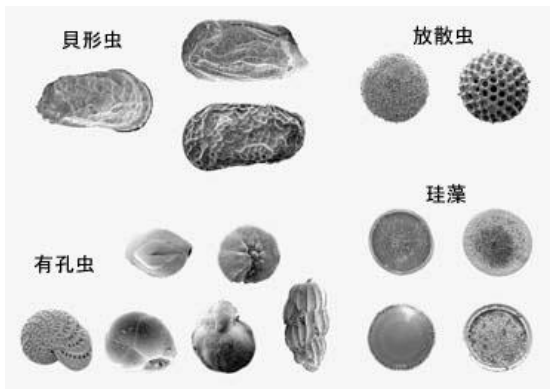
海の底で暮らすものや海中を浮遊するものがあります。



顕微鏡で見た海面の骨針



海綿とは現在、南の暖かい海に生息する生き物です。約 1,300 万年前の地層で見られるということは、当時この地域が温暖な気候で海であったとが考えられます。今ではスポンジなど日用品として使われています。



その他に見られる微化石



海面の微化石